

奨学金制度について

特定非営利活動法人 ミランクラブジャパン
理事長 マナンダール マダーブ ナラエン

ミランクラブの里子制度は、学校へ行きたくても経済的に困難で学校へ行けない女子を支援することです。現在の女性の識字率は昔と比べ格段に改善されてきていますが、ミランクラブ発足の1988年当時はとても低く、特に女性の識字率は15%にも満たない状態でした。ミランクラブは将来女性が自立できるように一人でも多くの女子が学校教育を受けられるようにと奨学金支援を始めました。

ミランクラブの里親制度が始まったのは1990年です。ミランクラブ発足からの2年間は毎月参加費1,000円でネパール語教室や文化交流を行い、諸経費を差し引いて余った分を貯めていきました。それと並行して現地調査も行っていました。里親制度をすぐに始められたのは準備期間があったからです。

第一号の里子は、ラミタ・マハルジャンです。現在彼女はミランクラブネパールのコーディネーターとミランダルマスタリ学校の会計を担当しています。

2021年までの31年間で1,003名の里子が奨学金を受けてきています。

会費と奨学金

ネパールの教育制度では義務教育制度はありません。当時のネパールでは学校教育を受けるのに月200ルピーあれば足りました。1年間で2,400ルピー(12,000円)の計算です。当時の為替で200ルピーは約1,000円でした。(現在の為替では200ルピーは約200円です。)これを基に年会費を15,000円にして、奨学金資金の12,000

円をネパールへ送り、日本での活動費を3,000円と決めました。

奨学金は制度が始まった時からずっと里子たちに直接手渡しています。奨学金はネパールの物価上昇に伴い上げるようにしてきました。今まで奨学金を上げることができたのは会費を利子の高いネパールの金融機関に預けられたことが大きいです。

今は毎年会員が減る傾向にあります。多かった年の半分以下になっています。以前は元本が減ることはありませんでした。新しく里子を迎え入れることもできました。しかし、王制廃止による混乱、政治や経済の遅れ、世界的な物価上昇等、金融機関からの利子が減り始めました。それに追い打ちをかけるように2015年のネパール大地震でネパールの物価は急上昇しました。そのため2016年からは元本を崩して奨学金を支給してきました。また2019年から始まった新型コロナウイルス感染拡大の影響も大きくなっています。もともと十分ではなかった奨学金では一部の、特に貧しい地方の里子たちは勉強を継続できず、中断せざるを得なくなっています。学校を中退した里子たちは家の手伝いをさせられ、貧しさ故の結婚を余儀なくされます。

ミランクラブネパールからは今後奨学金を1,500ルピー以上にしてほしいと依頼されています。1か月の勉強に掛かる費用は4ページの表の通りになっています。

奨学金期間

ミランクラブジャパンの奨学金支援は里子が小学生から自立可能な高校卒業(10+2)

までとしています。(+2は以前、短大とされて
いて現在は高校に組み込まれています。)そして、
高校を優秀な成績で卒業し、大学へ進学希望
がある里子の場合、特別里親を募り教育支援
を行っています。

会員の推移と支援の今後

現在の里親会員は66名(内、学生会員1名)、
賛助会員は4名です。会員の減少が続き、
会費からの奨学金は減る一方です。奨学金
希望があるにも関わらず2018年からは新
しい里子を受け入れていません。受け入れ
ていないので毎年の卒業で里子の数は減り
ますが、それ以上に預金残高の目減りは大
きいです。

今後、高校10年生までの場合と10+2の
卒業までの奨学金支給を考えた場合、どう
なるかミランクラブネパールからシミュレ
ーションが送られました。里子全員が卒業
するまでの資金は足りなくなります。都市
部では10年生修了後、アルバイトがで
きるようになってきていることから、今
後は10年生まで修了の奨学金支援に
して10+2の2年間をなしにすること
をミランクラブネパールと検討してい
ます。2015年の奨学金制度に戻す
ということです。ミランクラブの経費節

も検討しています。

コロナ過での経済縮小やイベント活動
中止の現在ですが、これからも私たちの
活動が継続していけたらと思います。

里子と会員の推移

年	里子	会員	年	里子	会員
1988	0	19	2005	26	118
1989	0	26	2006	54	122
1990	1	10	2007	34	124
1991	1	24	2008	42	109
1992	11	38	2009	31	122
1993		43	2010	35	113
1994	19	55	2011	33	109
1995	29	72	2012	46	93
1996	23	109	2013	45	96
1997	29	122	2014	69	102
1998	27	141	2015	47	100
1999	37	135	2016	44	91
2000	45	132	2017	37	95
2001	26	140	2018	31	85
2002	31	170	2019	0	77
2003	32	165	2020	0	75
2004	118	137	2021	0	

※ 2021年はまだ確定していません。

年度別奨学金支給額(月額)

年度	一般奨学金	学年	短大2年(10+2)特別里親からの奨学金
1990	Rs.200 ≒ ¥1,000	1~10年生	
1995	Rs.200 ≒ ¥400		Rs.500 ≒ ¥1,000
1996~2009	Rs.200 ≒ ¥280		Rs.500 ≒ ¥710
2010	Rs.300 ≒ ¥360		Rs.500 ≒ ¥600
2012	Rs.400 ≒ ¥390		Rs.500 ≒ ¥480
2013			Rs.700 ≒ ¥740
2014~2015	Rs.500 ≒ ¥550		
2016	Rs.700 ≒ ¥740	1~11年生	ネパール教育制度の改定により短大 2年間は高等学校教育となり、一般 奨学金支援の対象となる。
2017		1~12年生	
2018~2021	Rs.800 ≒ ¥820		

教育、通学にかかる費用

No.	項目	単価	年(月)使用数	年(月)合計	備考
1	ノート	20	264 (22)	5,280 (440)	教科毎の授業用と 宿題用が必要
2	ボールペン	10	360 (30)	3,600 (300)	低品質による消耗あり
3	鉛筆	10	72 (6)	720 (60)	//
4	消しゴム	10	24 (2)	240 (20)	//
⑤	鉛筆削り	10	1	10	
⑥	図形セット	250	1	250	
⑦	革靴	1,000	1	1,000	悪路による消耗激しい
8	運動靴	350	1	350	//
9	靴下	60	6	360	
⑩	通学カバン	1,000	1	1,000	
⑪	制服	1,800	1	1,800	
⑫	運動着	1,200	1	1,200	
13	運動用具代	400	1	400	学校所有
14	メディア	150	1	150	ネット使用料等
15	コンピュータ授業	400	1	400	必須科目ではないため
16	課外活動費	400	1	400	討論会、音楽踊り等
17	科学費	500	1	500	実験等
18	保健衛生費	300	1	300	
19	就学支援費	250	1	250	貧困家庭の生徒への 学費支援
20	図書費	375	1	375	図書購入、維持
21	テスト代	405	4	1,620	
22	修繕費	450	1	450	
23	教材費	575	1	575	黒板、チョーク、 マーカー、数学用等
24	進級費	650	1	650	
㊥	昼食代	35	312 (26)	10,920 (910)	麺類 Rs. 25、 ミルクティーRs. 10
合 計				32,800 (2,733)	

※ ⑤～⑦、⑩～⑫は数年使えたりもするが個人差がある。

※ ㊥は教育費ではないが、学校生活において必要であることから参考として載せた。
 弁当持参の場合もあるが、これも個人差がある。時には昼食抜きもある。